

【熊本 SJCD 例会 抄録】

演題 「重度歯周病患者に対し歯周組織再生療法
を行い良好な経過を得られている症例」

演者名 関 喜英

日付 2017年10月24日

keyword 1. 広汎型侵襲性歯周炎
2. Multilevel Risk Evaluation
3. Pre-surgical Conditions
4. 歯周組織再生療法 (エムドゲイン)

【抄録】

歯周病は、様々なリスク因子の影響下で、細菌性プラークの病原性と歯周組織の抵抗性の均衡が崩壊することにより発症するものとされている。よって、その認識に立って診査診断、治療計画、患者教育等を行うことが、健全な歯周組織の獲得と長期的な維持安定には欠かせない。

本症例の患者は36歳女性で歯肉の腫脹と疼痛を主訴に来院された。全顎的に重度の歯周炎で8mm以上の歯周ポケットがある歯が20歯ある状態であった。10年前に他院で一度スケーリングをしたものの、患者に歯周病の自覚や知識は無く、その後は歯科医院での定期的なケアも全く行ってこなかった。重度歯周病に進行する前の段階で、適切な治療と患者教育がなされ、定期的なメンテナンスを継続していればここまで進行することはなかったであろう。

今回は患者教育をしっかり行い、歯周初期治療後、エムドゲインを用いて歯周組織再生療法を行った。まだ術後3年半しか経過していないが、患者のセルフケアは徹底しており、定期的なメンテナンスのためにきちんと来院されて良好な経過をたどっている。

演者は9月にイタリアのヴェローナで行われたSJCD国際サマーセミナーに参加した。そこで、その時に講演されたイタリアの歯周治療の大家であるコルテリーニ先生の講義を踏まえて今回の症例を振り返ってみたい。

諸先生のご意見を頂き、今後の歯周治療のさらなるレベルアップに繋がれば幸いです。また、症例発表前にサマーセミナーの報告もさせていただきます。